

「大崎耕土」の環境保全に

古川東RCとソウル陽川RC 活動に使う物品寄贈



古川東RCが創立40周年記念、ソウル陽川RCとの共同奉仕事業として行った贈呈式

古川東ロータリークラブ（古川東RC、加藤智治会長、会員数41人）は7日、世界農業遺産「大崎耕土」の環境保全に取り組み大崎市内5団体に対し、活動に使う物品計150万円分を寄贈した。昨年迎えた創立40周年の記念事業と、姉妹クラブの韓国・ソウル陽川RCとの共同奉仕事業として実施。7日、市図書館多目的ホールで贈呈式が行われた。

大崎市内5団体へ

古川東RCは、ロータリー日本財団の地区補助金50万円を活用して計100万円を拠出。ソウル陽川RCは50万円を出し、各団体への物品購入に充てた。RCの社会奉仕事業は弱者救済やポリオ撲滅などが多い中、長い目で見ると人命に関わるとして環境保全活動への支援を選んだ。

昨年9月の40周年記念式典の前日、ソウル陽川とミーティングをし、今回の共同事業を呼び掛けた。世界農業遺産は弱者救済やポリオ撲滅などが多い中、長い目で見ると人命に関わるとして環境保全活動への支援を選んだ。

遺産に認定され、二つのラムサール条約登録湿地（化女沼、無栗沼・周辺水田）を抱える「世界の宝」の大崎耕土の環境保全をアピールし、翻訳した資料も作って理解を得たという。寄贈対象はNPO法

人エコパル化女沼、同無栗ぬまっこくらぶ、同シナイモツゴ郷の会、同田んぼ、化女沼2000本校の会の5団体。船外機や望遠鏡、水中照度計などを贈り、外来魚駆除や環境教育プログラムといった活動に役立ててもらった。

贈呈式では、加藤会長が5団体に写真付きの目録を贈呈。各団体の代表者が「多大な寄付をいただき、大変ありがたしい。これ1台で10人分の活躍してくれる」などと謝辞を述べた。

40周年当時に会長を務めた早坂龍太・創立40周年共同奉仕事業顧問は「こうした方々の尽力で『世界の宝』が守られていることを知ってもらえたら」と。

出席した伊藤康志市長は「古川東RCの寄贈は団体の活動の大きな励みになる」と期待した。



団体の代表者に目録を手渡す加藤会長（左）

世界農業遺産コラム開始

大崎観光公社 大和田さん（首都圏大崎連絡協顧問）執筆

みやぎ大崎観光公社（真山隆宏代表理事）のウェブサイトで、大崎耕土世界農業遺産コラム「青い水路、緑のいぶき」の連載が始まった。首都圏在住の大崎市出身者らでつくる「首都圏大崎連絡協」の顧問の大和田順子さんが月1、2回のペースで執筆する。

ウェブサイトに掲載

大崎地方1市4町（大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町）からなる大崎耕土は、2017年12月にFAO（国連食糧農業機関）から世界農業遺産へ認定された。大和田さんは09年、

自著執筆の取材で同市を訪れ、多様な魅力を持つ同市にひかれ、しばしば足を運ぶようになった。14年4月からことし3月末までは農林水産省の「世界農業遺産等専門家会議」で委員を務め、その間は



大和田さん

他地域との公平性を期すため同市と関わることを自粛したが、認定以降は総務省・地域力創造アドバイザーとして同市に派遣されるな

ど、よりの積極的に関心を持つようになった。同協議会では、大崎耕土について講義したことがきっかけで、3月に顧問に委嘱された。コラムは、認定から2年半がすぎたことなどを受け、農業従事者をはじめとする地元住民、出身者、同市と関わりを持つ人たちなどに「持続可能な水田農業を支える『大崎耕土』の伝統的水管理システム」の世界的な重要性や魅力を理解してもら

い、次世代へ継承していくことを考えるきっかけにしようことが狙い。同協議会顧問で、大和田さんと同協議会の間を取り持った同公社の早坂竜太副代表理事（古川土地社長）の打診で執筆することになった。大和田さんは宮城大大学院・事業構想学研究科博士後期課程に在籍中で、早坂顧問は同科前期課程を2018年3月に修了したという間柄でもある。

初回は「私が大崎耕土の世界農業遺産に惹かれる理由ー人と人、人と水、人と生きものが支え合うー」を題し、大崎地方を知ったきっかけや現在までの関わり方、昨秋に「鳴子の米プロジェクト」の稲刈りに参加し、その田で使われる水は南原穴堰から引かれたもので、今春に堰の清掃活動にも参加予定だった（新型）コロナウイルスの影響で参加見合わせ」ことなども記した。2回目は、同協議会が07年に誕生した経緯や、3月11日に「大崎耕土世界農業遺産応援宣言」をしたことを紹介。同協議会の草刈文幸会長や、NPO法人田んぼの岩渕成紀前理事長から届いた世界農業遺産にも関連する俳句を掲載。当面はオンラインを活用した勉強会を続け、収束したころに同協議会有志と同行を訪ねる計画であることも書いた。

大和田さんは「大崎耕土を支えてきた人たちを、SNSやオンラインなどを活用しながら話を聞き、書いていきたい」と話していた。

星事務局長 常務理事に

みやぎ大崎 観光公社 定時会員総会 5 議案承認

みやぎ大崎観光公社（真山隆宏代表理事）第9期定時会員総会が6月26日、大崎市図書館で開かれた。2020年度事業計画や収支予算など5議案を承認し、空席となっていた理事1人に4月1日付で事務局長に就任した星義一氏を補欠選任した。星氏は直後の臨時理事会で常務理事に互選された。任期は残任期間の第10期総会まで1年間。

着地型旅行商品造成を強化

議事に先立ち、あいさつに立った真山代表は「新型コロナウイルスの影響で、会員の多くが甚大な被害を受けている。市に支援策を打ち出してもらっているが、公社としても観光復活に力を尽くしたい」などと語った。また、顧問の伊藤康志市長は、感染の不安が残る中、関東、九州、北海道など比べ感染者が少ない東北地方に対し、教育旅行等の問い合わせが増えていることを紹介。「ピンチをチャンスに変える機会。新型コロナは『正しく恐れる』ことが大切。会員の力を結集した取り組みを期待している」などと述べた。星常務理事については、東日本大震災直後は、20年度事業計画に



あいさつする真山代表理事

物産協会とネットショッピングなどを盛り込んだ。議事後の閉会あいさつに立った早坂竜太郎代表理事は「われわれは市のファンクラブの事務局を目指す必要がある」と力説し、「観光、物産、ふるさと納税の3部門を核にして、ファンへタイムリーな地域情報発信などをする

結節点となり、関係人口増大を目指すたい」などと話していた。

大崎市に20万円贈る

首都圏大崎 連絡協議会 台風19号被害支援

首都圏在住の大崎市出身者でつくる「首都圏大崎連絡協議会」(草刈文幸会長)は先ごろ、令和元年東日本台風(台風19号)で被災した同市に支援金20万円を贈った。草刈会長が早坂龍太顧問(古川土地社長、みやぎ大崎観光公社副代表)、大和田順子顧問(農林水産省・世界農業遺産等専門家会議委員)とともに市役所を訪れ、伊藤康志市長に手渡した。



支援金を手渡す草刈会長(右から2人目)

同協議会は、同市の姉妹都市・東京都台東区内で開催予定だった第13回総会の席上、来賓の伊藤市長へ支援金を手渡す予定だった。しかし、新型コロナウイルスの影響を考慮して総会を中止したため、草刈会長と大和田顧問が同市入りし、早坂顧問と合流した。草刈会長は「昨年の台風で大変な被害を受けたことに對し、心からお見舞い申し上げたい」といい、「総会の際に渡したかったが、中止となってしまったので、直接渡したいと考え参上した」と語った。伊藤市長は「大崎市は数年前おきに大きな災害に襲われているが、そのたびに首都圏大崎連絡協議会からエネルギーをもらって復旧、復興に取り組んで

きた」と応援の継続に感謝し、「台風に加え、目に見えない新型コロナウイルスの影響が続くが、早く終息して一日も早く通常に戻るよう活動していきたい」と話していた。草刈会長と早坂、大和田顧問は、総会中止を受けて役員のみが集まった会議の際、「大崎市を思う気持ちは大崎市を思う気持ちは皆持っているが、これまでは自分の力をどのように役立てればいいのか今ひとつ分からなかった」といい、「会議で顧問に就任してもらった大和田さんに示してもらった宣言の内容をもとに、(新型コロナウイルスが終息すれば)6月に都内で勉強会、8月の『おさきジャンボ肉まつりinたじり』と抱き合わせでスタディーツアーを行いたい。大崎市の盛り上げに我々も一役買いたい」と語った。

大崎耕士の「応援団宣言」

首都圏大崎 連絡協議会 世界農業遺産盛り上げ

首都圏在住の大崎市出身者らでつくる「首都圏大崎連絡協議会」（草刈文幸会長）は11日、「大崎耕士世界農業遺産『持続可能な水田農業を支える大崎耕士の伝統的水管理システム』応援団宣言」を行った。定住人口でも交流人口でもない関わる人を意味する「関係人口」として、ふるさと大崎市に恩返しすることを目的としている。

スタディツアーなど計画



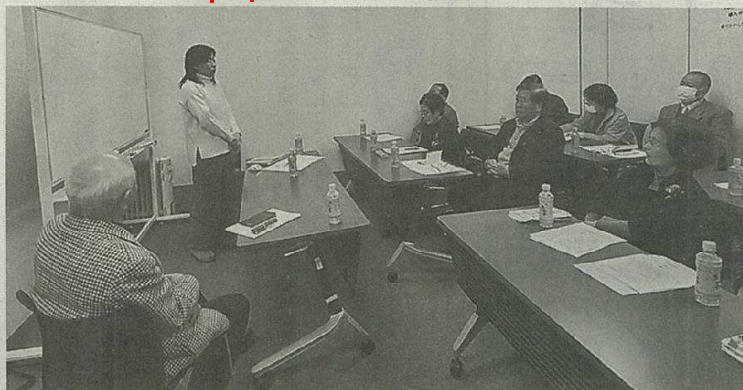
同協議会は、第13回総会を21日に同市の姉妹都市、東京都台東区で開催予定だったが、新型コロナウイルスの影響を考慮して中止を決めた。総会では、協議会の早坂竜太顧問（古川土地社長、みやぎ大崎観光公社副代

表）の橋渡しで、農林水産省・世界農業遺産等専門家会議委員の大和田順子さん（ロハス・ビジネス・アライアンス共同代表）が講演する予定だった。大和田さんは「ロハス」という言葉を日本へ最初に紹介したこと

で知られる。著書執筆の取材がきっかけで大崎市と関わりをもつようになったが、同会議委員就任後、大崎耕士と同様に世界農業遺産認定を目指す他地域と公立を期するため、いったんは大崎市と積極的に関わることを控えていた。認定後は総務省・地域力創造アドバ

イザーとして同市に派遣されたり、ことし2月の「世界農業遺産大崎耕士GIAHSスタディツアー」の案内役を務めたりした。総会で予定していた講演は、「おおさき市地方創生総合戦略で『5年間で交流人口1万人』の目標を設定しながら、3年目に入っても具体的アクションが少ない」と考えた早坂顧問が、大和田さんに依頼した。大和田さんは宮城大大学院・事業構想学研究科博士後

期課程に在籍中で、早坂顧問は2018年3月に同科前期課程を修了している。総会中止を受け、7日に役員18人が集まって会議を開き、大和田



講義する大和田さん

さんも招いて総会で予定していた講義を受けた。内容に感銘を受けた役員たちは、その場で大和田さんに顧問就任を依頼し、大和田

さんも快諾。東日本大震災から9年となる11月に初開催予定の「第1回農泊サミット」へ参加することも盛り込んだ。また、来年は世界農業遺産の活用や継承をテーマに地元の高校生や同窓会とともに応援活動を本格的に開始。5周年となる22年は「オール大崎で盛り上げる」主要団体として一役買うことになっている。

らんも快諾。東日本大震災から9年となる11月に初開催予定の「第1回農泊サミット」へ参加することも盛り込んだ。また、来年は世界農業遺産の活用や継承をテーマに地元の高校生や同窓会とともに応援活動を本格的に開始。5周年となる22年は「オール大崎で盛り上げる」主要団体として一役買うことになっている。

大和田顧問は、30日に伊藤康志市長を表彰し、応援団宣言について報告する予定という。

ボールペン350本寄贈

古川東RC 婦防ク連合古川支部へ

古川東ロータリークラブ（古川東RC、早坂竜太会長、会員数41人）は25日、大崎市婦人防火クラブ連合会

古川支部（千葉ひさを支部長）にボールペン約350本を寄贈した。

同支部には約350人が所属し、大崎市古川地域の9地区に分かれて活動。住宅用火災警報器の設置推進や拍

子木を使った防火呼びかけ、災害時の炊き出しなど活動範囲は多岐にわたる。

今回の寄贈は、同支部の長年の活動に敬意を表するとともに、今後の防火面での活躍を祈願して行った。

寄贈式は大崎市古川の「旬味酒菜 中鉢」で行われた例会の席上で行い、早坂会長が千葉支部長にボールペン



千葉支部長にボールペンを寄贈する古川東RCの早坂会長（右）
.....
を手渡した。

「寄贈をきっかけに、婦人防火クラブの活動が広く知られたら」と早坂会長。千葉支部長は「いただいたものを活動に生かしていきたい

い」と話していた。

読み聞かせに利用して

古川東RC 図書館に大型絵本寄贈

古川東ロータリークラブ（古川東RC、早坂竜太会長、会員数40人）は18日、大崎市図書館に大型絵本12点（約10万円相当）を寄贈した。

大型絵本は子ども向けの読み聞かせに利用されるもので、今回は「フレデリック」「おふとんかけたら」などを寄贈。大崎市古川の「旬味酒菜 中鉢」で行われた例会の席上で、早坂会長が市図書館の横山一也館長に絵本を手渡した。

「ぜひ活用していた

だきたい」と早坂会長。横山館長は「さっそく配架し、皆さんに利用してもらいたい。

おはなし会でも活用したい」と感謝していた。古川東RCによる図書館の寄贈は1982年から続いており、累計の冊数は1000冊を超えている。



横山館長に大型絵本を手渡す古川東RCの早坂会長（左）

大崎市建設親会 建設工事の安全祈願 災害の支援金100万円贈呈も

大崎市建設親会（高橋克幸会長、会員数69社）主催の「2020年大崎市建設工事安全祈願祭・新春祝賀会」が1月30日、同市古川のインパルラ浦島で開かれた。市、市議会、古川労働基準監督署、宮城労働基準協会古川支部など来賓も含め約100人が出席し、一年間の労働災害ゼロを祈った。また、台風19号災害の支援金100万円を市に贈った。

高橋会長は「祈願祭を契機に、市民の福祉向上と公共の基盤整備に力を尽くし、労働災害ゼロを実現すべく全員の英知を結集し、一層努力する」などと読み上げた。

また、高橋会長（仙北建設）、伊藤康志市長、水室勝好市議会副議長、小野寺五典衆院議員（秘書代理）、宮城労働基準協会古川支部の吉田幹雄支部長が祭壇に玉串をささげた。

新春祝賀会では、あいさつに立った高橋会長が「建設業で昨年の大崎管内の労働災害死亡事故はゼロだったが、（建設業全体では）死者が増加している。労使一丸となって安全徹底を図ってほしい」と



伊藤市長に災害支援金を手渡す高橋会長（左）

と会員各社に要請。台風19号で特に被害の大きかった鹿島台地域に、鹿島台以外の支部も応援に入ったことに謝意を示し、会員から寄せられた支援金を伊藤市長に手渡した。伊藤市長は「温かい気持ちに心から感謝したい。被災者の生活やなごりわいの再建に全力で取り組み、建設会の皆さんと一緒に市の安心、安全を高めたい」などと語った。



祈願祭で宣言文を奏上する早坂副会長